

公益財団法人東海交通遺児を励ます会 会報

# はばたけ

～希望と勇気と自立～

- 会の目的 交通遺児の自立を支援します。
- 会の事業 目的に沿って、次のような年間行事を計画しております。
- \* 3月 中学を卒業する交通遺児を励ます集い・二十歳を迎える交通遺児を励ます集い  
新たな門出を、保護者と共に祝います。  
中学卒業祝金15万円を卒業生に贈呈・今年二十歳を迎える遺児に祝品を贈呈
  - \* 8月 親子グランピング
  - \* 12月 交通遺児を励ます大会 交通遺児及び保護者が支援者、寄付者と共に集います  
来春小学校に入学する児童に入学祝金10万円を贈呈
  - \* 親子ふれあい懇親会  
保護者が抱える問題を共に語り合い、子ども達は当会のボランティアとの交流を楽しみます。
  - \* 「親子旅行」を年数回
  - \* 随時 支援者からの招待行事、催しに参加
  - \* 2月、6月、10月 会報「はばたけ」年3回発刊



## 必ず夢を叶えるから応援してください

第54回 中学を卒業する交通遺児を励ます集い  
二十歳を迎える交通遺児を励ます集い

令和8年3月15日  
サイプレスガーデンホテル



堀口 弓月

もうすぐ中学校を卒業して4月から高校生になります。新しい制服を着るのが楽しみなような勉強についていけるか不安なような、今はそんなドキドキした気持ちでいっぱいです。私がこうして「高校でも頑張ろう」と思っているのは、皆様の支えがあったからです。お父さんが亡くなってから先のことを考えると暗い気持ちになってしまうこともあったけど、皆様の気づかいや気持ちのおかげで私は今まで何不自由なく生きてくることができました。本当に感謝しています。

中学校での思い出を振り返ると、たくさんの宝物の

ような時間がありました。修学旅行や体育祭、東海交通遺児を励ます会での大会のクリスマス会などの行事で友達とはしゃぎ合い、心の底から笑えた時間は私にとってかけがえのない思い出です。また、テスト勉強や受験勉強など時に苦しい時もありましたが、諦めずに最後までやりとげることができたのは間違いなく皆様の応援があったからです。この3年間で経験した楽しい思い出や「一生懸命努力したこと」は、私の大きな自信になりました。高校にいったら、資格の勉強、部活や学校行事も全力で楽しみたいです。皆様から頂いた優しさを忘れず、私もいつか誰かの役に立てるような立派な大人になりたいと思います。これまで支えてくれて本当にありがとうございました。高校でも一生懸命頑張るので見守ってください!!





次に進む前に

佐々木 陽梨

私は今年の春、中学を卒業しました。寂しさや達成感、高校への不安や期待、色々な感情が今あります。そんな中、私は新たな一歩を踏み出すための春休みを大切にしたい、充実させたいと考えました。主に私がやりたいことは3つあります。

1つは友達と過ごすことです。今まで私を笑顔で楽しませてくれた友達は高校では離ればなれになってしまいます。なので、春休みは沢山の友達と遊んで、話して思い出を少しでも増やしたいと思いました。一緒に買い物をしたり、ディズニーに行ったり、お泊りしたり、推し活をしたり、色々なことをして楽しめたらいいなと思います。私はそれが楽しみです。なので、私は友達と過ごす時間を春休みは大切にしていきたいです。

2つ目は絵を描くことです。私の趣味は模写をすることなのですが、受験があったので自由に描く時間がありませんでした。1つの絵に最低でも3時間はかかるので春休みは何時間でも使って、絵を思い切り描きたいです。また、私は高校でも美術部に入りたいと考えているので、さらに自分を成長させて自分の実力を伸ばしていきたいです。

最後の1つは勉強です。高校になったら学習への意欲が高い生徒が沢山いたり、授業のペースもはやくなったり、時間も限られていたりします。その中でも、少しでも苦勞がなくなるように復習を大事にしたいと思いました。得意を伸ばし、苦手を克服することを目標に、春休みは勉強を短時間でもやるようにしたいです。

この3つのことを大事に、沢山の思い出を作り、充実させたいです。また、次のステップのためにもなるような過ごし方をして高校でも励んでいきたいです。



会長挨拶



会長 吉野 雅山

おはようございます。中学校を卒業の皆さん、また、二十歳を迎えた皆さん、そして保護者の皆さん、大勢の役員の皆様にも早朝よりお集まりいただき、励ます集いが開催できますこと、厚くお礼を申し上げます。また、ご臨席を賜りました愛知県教育委員会の谷川先生、名古屋市教育委員会の熊谷先生におかれましては、後ほど皆さんに励ますお言葉を頂戴できますこと、参加者を代表し厚くお礼を申し上げます。さらに、中日新聞社会事業団の林さんが日曜日にもかかわらずご出席くださり、皆さんに記念品のプレゼントを直接お渡しいただけること、心より感謝申し上げます。

さて、中学校を卒業したということは、皆さんの作文にも書いてあるとおり、小中学校9年間の義務教育が終わったということです。そして、4月からは新しく高校生活が始まりますが、思い出してください。楽しいこと、苦しいこと、悲しいこと、つらいこと、いろいろなことがあったと思います。そのときどきにお母さんや先生、友達や皆さんの周りの人たちのお支えがあって今日を迎えることができたのではないかと思います。その感謝の気持ちを持ち続け、素晴らしい高校生活を楽しく送ってください。夢は沢山あると思いますが、これから先の皆さんの人生を考えますと、夢のまま終わらせるのではなく目標を掲げ、その目標を勝ち取るためにこれからの人生を進んでいくという想いでスタートしていただければと思います。

また、二十歳を迎えた皆さん。この「二十歳を祝う会」は40年ぶりに開催いたしました。私は、東

海交通遺児を励ます会の子どもはいくつになっただけではなく、いくつになっても、この会の子どもであるとOG・OBに声掛けしたところ、二十歳を迎えた皆さんもお祝いしたいとの提案があり役員会で承認をいただきました。40年前の二十歳を祝う会では、150名の子ども達が集まったという記録がございます。その当時の参加人数は、今の東海交通遺児を励ます会の子ども達の人数と同じぐらいで、二十歳の対象者は約10分の1になりました。それは、交通事故が減り、その子ども達が増えなくて良かったという客観的な見方と、今もなお、そのような子ども達がいる現実を我々は十分に認識し、見守り続けたいと思っております。

今、ミラノ・コルティナ2026パラリンピックが開催されていますが、先日、冬季オリンピックがありました。知らない方もいるかもしれませんが「りりゅう」がショートプログラムでリフトを失敗し、5位になって愕然とした姿がテレビに長く映し出されました。そして翌日、フリープログラムではなんと宇宙一の演技をし、見事逆転で金メダルを獲得しました。では、そのひと晩のあいだに何があったのだろうということを盛んにテレビでは取り上げていました。あの二人の信頼関係、絆と、あきらめないポジティブな姿が映し出されました。そして「こういったときのために練習をしてきたのです」とおっしゃっていました。

もう一人は、皆さんと年の変わらないスノーボードの長谷川帝勝選手です。銀メダルを取ったあとに「私の目標は見えています。今から一分一秒惜しむことなく練習に励みます」とおっしゃっていました。皆さん方も目標を掲げたら、その目標を達成するために日々があるのだとの思いで過ごしながら、人に役立つ、社会に役立つ、そんな大人になっていただくことをお願い申し上げます。

さて、お母さん方、本当におめでとうございます。私は子どもたちが順風満帆に育ってくれることを願っていますが、この先、何もかもうまくいくということはありません。そして、これからは子ども達が困ったときには、いつでも飛び込んでいける、苦しみを乗り越え安心して生活できる、そんなご家庭をおつくりいただけますことを深くお願い申し上げます。

今日は、佐々木さんと堀口くんより作文を読んでもらいます。その後、役員の榎井理事から講話をいただけることになっております。そして、子ども達の前に『ひまわりと羊』という本がおいてございます。これは第二部の乾杯の挨拶で、監事の内河先生が中身をお話しになると思います。皆さんにはこの春

休みのあいだに、内河先生のそのご苦勞にぜひとも目を通していただければと思います。

最後になりましたが、一部が終わったら楽しい会食の時間です。今日は、楽しくおいしいご飯を食べにきたというそのような会になりますことをお願い申し上げます。私の冒頭の挨拶とさせていただきます。どうぞ大いに楽しんでください。



励ましの言葉



愛知県教育委員会 義務教育課 課長補佐 谷川 永里子様

「第54回中学を卒業する交通遺児を励ます集い・二十歳を迎える交通遺児を励ます集い」の開催にあたり、愛知県教育委員会といたしまして、心よりお祝い申し上げます。

さて、中学校を卒業される皆さんは、生まれてから今日までおよそ5,500日、二十歳を迎える皆さんは約7,300日の時を重ねてこられました。1日をつまみ木にたとえるならば、それぞれの皆さんは、5,500個、7,300個という実に多くの積み木を、一つ一つ丁寧に積み重ねてこられたこととなります。その日々の積み重ねこそが、今の皆さんを形づくっているのです。

私が皆さんにお伝えしたいのは、「ふつうの日こそ大切に」ということです。人生には、記憶に残る特別な日もありますが、多くを占めるのは、何気ない「ふつうの日」です。しかし、この「ふつうの日」を大切に過ごすことで、将来に向かう確かな土台が築かれていくと考えています。

皆さんにも、「こんな仕事に就きたい」「将来はこんな自分になりたい」と、胸に描いている夢や目標があることでしょうか。その未来は、突然訪れるものではありません。今日という日の延長線上にあります。だからこそ、なんでもない一日を大切に、小さな一歩を積み重ねていくことで、自分の思い描く未来へ近づいていくことができます。これからも、これまで大切に積み重ねてきた日々の上に、また新しい一日を丁寧に積んでいってください。皆さんのこれからの挑戦と活躍を、心から期待しています。

最後になりますが、本日の集いの開催にあたり御尽力いただきました関係者の皆様にも深く敬意を表しますとともに、日頃より温かい御支援を賜っております皆様にも厚く御礼申し上げます。

本日は誠にありがとうございます。



名古屋市教育委員会 教育支援部 義務教育課 指導主事 熊谷 佳代様

中学校をご卒業そして、二十歳を迎えた皆さん、この度はおめでとうございます。

今日は、大きな節目を迎え、新しい一歩を踏み出す皆さんに、ミラノ・コルティナオリンピックで私たちに大きな勇気くれた、フィギュアスケートの坂本花織選手のお話を贈りたいと思います。皆さんもテレビなどでご覧になったことと思います。

坂本選手は、今回の大会を「最後のオリンピック」と決めて臨みました。その覚悟は、演技のひとつひとつに宿っていて、リンクに立つ姿からは「やりきる」という強い意志が伝わってきました。最後のフリーの演技では悔しさも残ったようですが、彼女のダイナミックで流れるような演技は、高度なジャンプが無くても世界中を魅了しました。

そして彼女には、もう一つ大きな魅力があります。それは、仲間から「やかましい太陽」と呼ばれるほど明るく、周りを照らす存在であることです。団体戦では、自分の演技だけでなく、仲間の背中を押し、緊張している選手に声をかけ、チーム全体の空気を前向きに変えていきました。自分が輝くだけでなく、周りの人を輝かせる力を持っているその姿も、多くの人の心に残りました。

二十歳を迎えた皆さん、中学校卒業を迎えた皆さんも、それぞれが、今、人生のひとりの区切りであり、新しいスタートの時です。これから先、思うようにいかないこともあるかもしれませんが、でも、坂本選手のように、自分の選んだ道を信じて努力を積み重ねれば、必ず自分らしい輝きにたどり着けます。そして、皆さんの周りにも、同じように頑張っている仲間がいます。時には自分が「太陽」となって誰かを照らし、時には誰かの光に支えられながら、これからの道を歩んでいってほしいと思います。

坂本選手が最後の演技後に語ったように、「支えてくれた人への感謝」を忘れずに進んでいくことは、どんな場面でも大きな力になります。今日ここにいる仲間、家族、様々な人とのつながりを胸に、新しい世界へ羽ばたいてください。皆さんのこれからの人生が、坂本選手の演技のように、力強く、美しく、そして何より「自分らしく」輝くものでありますように願っております。

本日は誠にありがとうございます。

社会福祉法人中日新聞社会事業団 林美歩様

「中学を卒業された皆さん、そして二十歳を迎えられた皆さん、本当におめでとうございます。」

中日新聞社会事業団は、読者や地域の皆様から寄せられた温かいお気持ち（ご寄付）を形にし、地域福祉への貢献を続けております。その一環として、「中学を卒業する交通遺児を励ます集い」では、新しい門出を迎える皆さんに毎年図書カードをお贈りしています。

今回も、集いの場で直接記念品をお届けし、皆さんの晴れやかな表情を拝見できたことを心から嬉しく思います。スピーチや会場での様子からは、これまでの道のりで一歩ずつ積み重ねてきた努力と、ご家族をはじめとした周囲の皆さんの温かな支えを感じられ、深く心を打たれました。

中学卒業、そして二十歳という大きな節目を迎えられた皆さん。これからは自ら選択し、学び、新しい世界を切り拓いていく機会が多くなることかと思えます。時には大変なこともあるかもしれませんが、皆さんの後には、たくさんの応援団がいることを忘れないでください。

新しいステージに立つ皆さんの毎日が、希望と喜びに満ちたものになるよう、職員一同、心より願っております。



東照宮遺訓として伝わっております。

「急ぐべからず」慌てるなという教えがあります。そして「世の中は思うようにならない、足るを知る」という知足の精神、責任を転嫁しない、自分が責任を負うこと。「及ばないことが過ぎたるより勝れり」というのは、やり過ぎないこと、限度を超えないことを論じております。江戸幕府開幕以来260有余年の長きにわたって続きました礎を築いた初代将軍の言葉であります。これは私自身もいろいろな壁にぶち当たったときに、励ましの言葉として今でも唱えています。

それから、家康公は江戸城の改築、増築に立ち合い、1607年には二条城の完成も見ます。同じ年に加藤清正公は熊本城を落成しています。ここで加藤清正公の生い立ちを見てみましょう。清正公は1562年に名古屋の中村地区で生まれました。3歳の時に父親が亡くなり、母親は身内を頼って津島に移住しました。母親は優しくも厳しく育てました。そして、清正公が5歳の時、近く妙延寺というお寺屋に入門しました。そこで仏教、易経、論語、読み書きそろばん、習字を学習しました。12歳の頃になり、母親である伊都と姻戚関係にあった豊臣秀吉公のもとに仕えました。朝鮮の遠征、それから各戦いに率先して陣頭指揮をとったのです。虎退治というエピソードもございます。

さて、1609年、家康公はこの尾張に強大なお城を建造する必要性に迫られました。清須城はありましたが、水害の被害を被り、新たな土地を探したわけです。そこで白羽の矢が立ったのが、ここ名古屋です。全国の諸大名に名古屋城築城の命令が下り、真っ先に手を挙げたのが加藤清正公でした。清正公は熱田に陸揚げされた石の運搬を始めました。大きな石ですから、綱で皆さんが引っ張っていくわけです。その石の上に着飾った小姓と、右手に扇、左手に槍を持った清正公が立ち、叱咤激励して石を運びました。酒、魚、お餅にお菓子をふんだんに与えて士気を上げ、名古屋城の天守台は3カ月ほどで完成しました。天守閣と御殿は幕府直営でして個々に名手の偉業を掲げ、多くの奉行が携わりました。現在は、名古屋城の敷地内に清正公石曳きの像が立っています。その石はどこから運ばれてきたのでしょうか。

近くの三河湾の篠島や伊勢、紀伊のほう、遠くは瀬戸内海の小豆島から運びました。小豆島の東海岸にも大天狗石という大きな天狗のような形をした岩があります。高さ17メートル、重さ1700トンの大きな石です。

講話



理事 研井照和様

ただいまご紹介にあずかりました研井と申します。中学を卒業する皆さん、二十歳を迎える皆さん、誠におめでとうございます。

私も中学生の頃は、不安と希望に満ちていました。不安といいますが、やはり将来に何になるかということです。当時の私は、海外のペンフレンドと文通をしていました。そして、いつか海外に出たいという希望を持っていました。

私は中学3年生の3月15日に何をしてたか、私がつけている日記を見ました。すると、ちょうど3月15日は中学校の卒業式の日でした。そこで担任の先生がはなむけにおっしゃった言葉があります。『一つ、長生きをすること。一つ、人に迷惑をかけないこと。一つ、悪いことはしないこと』この三つです。私は、改めて肝に銘じたいと思います。

本日お話ししたいことは、およそ400年以上前の1500年代のこの地域の歴史です。当時は群雄割拠して三英傑が生まれて、大変な世の中でした。その中の一人、私が尊敬している徳川家康公が書いた文言がございます。それをご紹介しながら読み解いていきたいと思います。

「人の一生は、重荷を負うて遠き道を行くが如し、急ぐべからず。不自由を常と思へば不足無し、心に望み起らば、困窮したる時を思ひ出すべし。堪忍は無事長久の基、怒りは敵と思へ。勝つ事ばかり知りて、負くる事を知らざれば、害其身に至る。己れを責めて人を責むるな、及ばざるは過ぎたるより勝れり。」慶長8年正月十五日の筆記でございます。これを紐解いてみましょう。家康公は幼少の頃、今川家の人質として暮らしました。岡崎城に戻ってからも敵だらけ、領民の反乱にも遭遇しました。ときの織田信長公、豊臣秀吉公とも対決しなければならぬ状況でした。非常に責任の重い立場にあったわけです。それから、肉親の惨殺や政略結婚の悲劇などが相次ぎました。耐えに耐えて、毎日が忍耐の連続であったと思われま。負け戦もしました。三方ヶ原の戦いでは命ながらに浜松城に逃げ帰りました。そのような人生の中で現在は、

そこへ行きますと、所狭しと築城に使われる石が並んでいます。中には、切る寸前の石も置かれています。それらは大阪城の築城のときに使われました。さらに、当名古屋城にも使われたという記録もあります。

さて皆さん、人生山あり谷ありです。先人の知恵をもって壁を乗り越えていただきたいと思えます。世界は広いです。広い世界に勇気を持って羽ばたいていただきたいと思えます。ご清聴ありがとうございました。



そのために心から乾杯の音頭を取らせていただきます。ご唱和ください。乾杯!!

乾杯の音頭

監事 内河恵一様



今日は「お祝い」、とても楽しんで食べようというのがメインです。今いろいろとテーブルマナーのお話しをお聴きしましたが、私も22歳から29歳までアメリカ人の事務所で働いていて、よく洋食を食べに行きました。テーブルマナーのことは人並み以上に意識した記憶です。アメリカ人とイギリス人のやり方は若干違います。左手に持ったフォークで肉を抑え、右手に持ったナイフで肉を切り、そのまま左手のフォークで肉を口に運ぶか、それとも右手のナイフを一旦お皿に戻し、改めて右手にフォークを持って肉を食べるか、という違いです。しかし、結論的には、ナイフで喧嘩をしないように楽しく食べるというのが「マナーの基本」だと思っています。今日は中学卒業生の皆さんや、晴れて二十歳を迎えた先輩の皆さんも出席しています。めでたく行きましょう。

私は、中学校を卒業してすぐ就職しました。高校は一学年10人ほどの小さな夜間部でした。当時私には人生の「目標」は勿論「進路」もありませんでした。それで「よく弁護士になれたな？」と聞かれることがあります。人生にはそういうこともあることを皆さんに知ってもらいたいです。学校だけが勉強の場ではないのです。皆さんのお父さんやお母さんが事故に遭い、皆さん方もいろいろつらい経験をしたことと思います。そのような過程で、皆さん方は辛かったけど、そうした事実をしっかりと受け止める勇気と知恵を身につけたはずですよ。

私の経験からいっても、確かに順調には学校に行きませんでした。色々な職場で関わりを持った人々が私の友人となり教師となって導いてくれました。格別感謝の気持ちが強くなるものです。その「恩返し」のために私は弁護士になることを思いつき、決断しました。

皆さん方は、お父さんやお母さんが亡くなったという大変な状況の中で、必死に皆さんを育ててくれたお母さんやお父さんを見てきました。そしてそれを体一杯に受け止めてきました。これほど大きな教育の場にはありません。そしてそれは決して忘れることもありません。

皆さん方は、多くの人の世話になり、そのお陰で前に進むことができた。それが、自分の次の人生のステップの土台になるのです。皆さん方一人一人の人生は、そのような強固な土台の上にあります。しっかり自信をもって、これからの人生を歩んで頂ければ大変うれしいです。

『～伝えたいこと～』『ひまわりと羊』について

「ひまわりと羊」を読んでみて下さい!



今日私が「祝う会」の会場に参りましたら、「ひまわりと羊」を皆さんにお配りするという吉野会長のご指示があり、とても嬉しく感謝しています。少しだけコメントさせていただきます。

2022年4月から丁度1年間、「ひまわりと羊」というタイトルの記事が中日新聞の「愛知県内版」に掲載されました。2024年3月に中日新聞の出版部から「ひまわりと羊」の書籍化のお話がありました。新聞では私の関わった裁判事件等を丁寧に連載して頂いたわけですが、改めて「本」にまですることはないだろうと思いました。しかし、経済的理由とはいえ、普通の高等学校にも進学できなかった私が、もたつきながらも諦めずに頑張った結果、「お世話になった方への恩返しを果たすために、弁護士になってやろう」という気持ちを持つようになり、「その気持ちが難関と言われる司法試験に私を合格させてくれた」という出来事は、思うようにいかない人生を歩んでいられるかもしれない若い皆さんに対するささやかな「応援歌」になるかもわからないと考えるようになりました。

そのために、ちょっぴり恥ずかしいことですが、私の若い頃の歩みを「第2部 果たせぬ恩返し」として追加し、本に仕上げることにしました。

人生にはいろいろなことが起こります。しかし、「人間万事塞翁が馬」と言いますが、何が良くて何が悪いのかということは必ずしも分かりません。時には「一寸先は光」と信じて進むことも大切です。大した本ではありませんが、できれば若い人たちに読んでもらいたいというのが私の気持ちです。



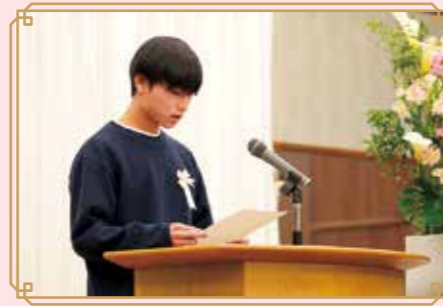
# 中学卒業 おめでとう!

私たちが今 いられるのは  
いろいろな人に支え られてきたからです

# 祝!二十歳



稗井理事に  
講話をいただきました



すてきな「想い」の発表でした



内河監事に  
乾杯のご発声をいただきました



中学校卒業おめでとう  
楽しい高校生活を送ってね



二十歳おめでとう  
夢に向かって、いつまでも  
応援しているからね!



役員の方にご協力いただき  
OGが用意した問題に挑戦しました

この問題  
なんだろう...

次はどんな料理が  
来るか楽しみ!!



おいしい!!

今年のデザートは  
アフタヌーンティー風に  
してみました!



OGと将来について  
話をしました



テーブルマナーを学びながら  
コース料理をいただきました

ご支援、ご寄付に心より感謝申し上げます

当会は、国、地方自治体の補助を受けず、皆さまからの温かいご支援、ご寄付で、愛知県、岐阜県、三重県の交通遺児と保護者への支援活動を行っています。  
また、当会は平成24年7月に公益財団法人に認定され、当会への寄付は税制優遇が受けられます。  
令和8年1月～4月にご寄付を賜りました。  
皆さま方の温かいご支援、ご寄付に心より感謝申し上げます。

(敬称略・順不同)

【団体】

日本道路株式会社中部支店 道親会  
株式会社真城ホールディングス  
株式会社マイシン  
中部日本ボールルームダンス連盟プロフェッショナル選手会  
カリツー協会 事務局  
株式会社広報企画  
田原交通安全協会  
全国共済農業協同組合連合会 愛知県本部  
有限会社はやかわ自動車

一般社団法人愛知県トラック協会 青年部  
会トラック Fes2026  
ガイドードリンコ株式会社  
株式会社デンソークリエイティブ社員クラブ  
株式会社岩崎設計事務所  
株式会社カワフチ  
有限会社ビトップス  
RIDE運転代行利用者一同  
一般社団法人 愛知県損害保険代理業協会  
社会福祉法人 中部善意銀行  
社会福祉法人 中日新聞社会事業団  
株式会社デンソークリエイティブ  
一般社団法人 名古屋住友クラブ  
中部ブロック青年部協議会  
中部日信電子株式会社  
アトミクス株式会社  
愛知車輛興業株式会社  
愛知県中古自動車販売商工組合  
MONZASupercarClub  
愛知スズキ労働組合  
株式会社日刊自動車新聞社 中部支社

社会福祉法人中部善意銀行経由の寄託寄付  
キャリアフラップ株式会社  
株式会社あいち銀行

株式会社名古屋銀行経由の寄付  
岡通ホールディングス株式会社

【個人】

藤原 光広・美舟  
兵頭 文男  
吉野 雅山  
野口 土葉  
奥村 仁美  
高橋 広史  
松本 秀子  
水野 龍史  
福島 厚子  
岡地 功七  
サカ 匠名  
匿名

寄付型自動販売機設置  
ご協力のお願い

当会では、子ども達が交通事故により心を痛めない社会を強く願っております。

皆さまには、当会を周知いただく方法の一つとして寄付型自動販売機の設置にご協力をお願い申し上げます。

次の企業、団体様が新たに設置くださいました。心より感謝申し上げます。(敬称略・順不同)

アイチ物流株式会社、大和高速運輸株式会社、緑ヶ丘自動車学校、キムラユニティー株式会社、トヨタ情報システム愛知株式会社、株式会社ナルキュウ中部、愛知つばめ交通株式会社、株式会社 Heart FM、全国労働者共済生活協同組合連合会、日の丸自動車株式会社



お知らせ・行事案内

ふれあい懇親会

日常生活や子育て教育、進学など語り合いたいです。  
また、お子さま同伴、保護者のみでもご参加いただけます。

・令和8年7月25日(土)  
【期限:令和8年7月18日メ切】

恵那保古親子グランピング1泊2日親子旅行

・令和8年8月15日(土)～16日(日)

ディズニーランド1泊2日親子旅行

・令和8年11月21日(土)～22日(日)  
【期限:令和8年7月31日メ切】

第59回 交通遺児を励ます大会

小学校入学祝金贈呈(第一部式典にて贈呈いたします)

・令和8年12月20日(日)  
サイプレスガーデンホテル

第55回 中学を卒業する交通遺児を励ます集い

中学校卒業祝金贈呈(第一部式典にて贈呈いたします)

二十歳を迎える交通遺児を励ます集い  
令和7年4月より対象年齢を引き上げ、二十歳を迎える遺児をお祝いします。(記念品贈呈)

・令和9年3月14日(日)  
サイプレスガーデンホテル

現時点では開催を予定しておりますが、状況に応じて延期、中止とさせていただきます。皆さまにはご理解とご了承のほど、よろしくご依頼申し上げます。

「祝金」申請時に、「交通事故証明書※」が必要となります。※コピー可

お願い

住所や氏名などの変更は、事務局までご連絡をお願いいたします。

発行・編集 公益財団法人東海交通遺児を励ます会  
名古屋市中区金山町1-11-2 メイプル金山307号  
電話 052-682-9819 FAX 052-682-9865  
ホームページアドレス <https://www.tokai-kotsujui.com/>  
発行責任者 会長 吉野 雅山 印刷 二ホン美術印刷株式会社